

第 30 回基準諮問会議

2017年7月11日、財務会計基準機構（FASF）において第30回基準諮問会議（議長 湯浅一生 富士通(株) 執行役員 財務経理本部長）を開催し、審議が行われました。詳細については、財務会計基準機構ホームページ（https://www.asb.or.jp/jp/project/standards_advisory.html）にて「議事概要」を公開していますのでご覧ください。

（審議事項）

1. テーマ提言について

（前回までの基準諮問会議における提案について）

FASF 事務局から、「『経営者が会計方針を適用する過程で行った判断』及び『見積りの不確実性の発生要因』に関する注記情報の充実」については、国際会計基準審議会（IASB）が公表した開示原則に関するディスカッション・ペーパーへのコメントの検討を終えた後に議論を再開することとなっている旨、「無対価株式交換の会計処理」及び「親会社による子会社の吸収合併」については、実務対応専門委員会のテーマ評価の結果を踏まえ、企業会計基準委員会（ASBJ）の新規テーマとして採り上げるには至らないとし、「過去に審議を行ったが提言に至らなかったテーマ」として取り扱うことを提案する旨の説明がなされた。また、「会計制度委員会報告第14号「金融商品会計に関する実務指針」における当座貸越契約及び貸出コミットメントに関する規定の改正」については、引き続き状況を注視している旨の説明が行われた。

基準諮問会議の委員より事務局提案に賛成するとの意見が出されたことから、議長より、「無対価株式交換の会計処理」及び「親会社による子会社の吸収合併」については、事務局提案のとおり、「過去に審議を行ったが提言に至らなかったテーマ」として取り扱う旨の発言がなされた。

2. ASBJの最近の活動状況について

ASBJ 小野委員長、小賀坂副委員長及び川西常勤委員より、前回の基準諮問会議以後の ASBJ の最近の活動状況についての報告が行われた。

基準諮問会議の委員より、収益認識に関する会計基準の開発の状況、開示に関する適用後レビューの計画及び税効果会計に関する会計基準の開発の状況についての意見及び質問が出された。